

# 鳥海イヌワシみらい館通信

Vol,42 2022年 春号



鳥海イヌワシみらい館  
マスコットキャラクター  
「ワッシーくん」

特集「さえずり屋 ～鳥海イヌワシみらい館 Pop up Store～」  
“とびしまんちゅ流”鳥見のススメ 第1回「観察に勝るものなし！」

「シマアジとスズガモ」3月 酒田市 撮影：佐々木真一様

# Special Edition

## 繁殖シーズン到来!

# さえずり屋

## ～鳥海イヌワシみらい館 Pop up store～

※Pop up store…期間限定店舗

豪雪を乗り越えて待ちに待った春の到来!

春のフィールドは山野草だけではなく。

野鳥たちの繁殖シーズンに聞かれる“さえずり”を耳で「聞く観察」も面白いです。

「さえずり」は主にスズメ目の「鳴禽類」と呼ばれる鳥たちが発する繁殖期の鳴き声ですが、猛禽類たちもこの時期に繁殖期を迎える種が多く、あまり聞くことのない鳴き声を聞けるチャンスです。

さあ! 陽光に誘われるがままフィールドへ出てみませんか!

(企画協力:公益財団法人日本野鳥の会 北海道海鳥センター 音声提供:NPO法人バードリサーチ 画像:長船裕紀氏)

※QRコードをスマートフォン等のリーダーで読み込むことで音声を聞くことが可能です。利用は無料ですが、通信料が発生する場合があります。

※「さえずり屋」とは東京港野鳥公園や北海道海鳥センター等に設置された野鳥の声を聞くことのできるハンズオン展示です。



### トビ

言わずと知れた最も身近な猛禽類です。おなじみの「ピーヒョロロ」という鳴き声は、のどかな春の陽気と澄んだ空に似合う最適なBGMです。



### ノスリ

こちらも、実は身近な猛禽類のノスリ。庄内地方では平野部で簡単に観察することができます。「ピー～エー」というトビの「ヒョロロ」が無い鳴き声と覚えると良いかもしれません。



### ハヤブサ

名前はよく聞くけれど、実際に見たことがある人はそんなに多くはないかもしれませんね。越冬のために南下していたハヤブサたちが春になると北上して繁殖地にやってきます。岩場の近くで「キーキーキー…」という鳴き声を聞いたならハヤブサがいるかもしれませんので、繁殖活動に影響を与えないよう注意してくださいね。





## サシバ

3月下旬から9月までの期間限定で観察される猛禽類です。冬季は東南アジアで越冬し、繁殖のためにいち早く日本の生物多様性豊かな里地里山にやってきます。「ピクイー」という特徴的な鳴き声は入門に最適です。



## ハチクマ

こちらも夏季限定で観察できる猛禽類ですが、サシバに比べると日本に来る時期は若干遅めで、5月に入ってから観察ができるようになります。「フィーヨ～」という、ノスリに比べて若干高めの鳴き声ですが、生息場所が森の中であることから観察難易度は高めかもしれませんね。



## オオタカ

日本全国に留鳥として生息するオオタカは、近年生息数の増加によって「希少野生動植物種」の指定を外れたパイオニア的存在です。ハヤブサの鳴き声にも似ていますが、「ケケケケ…」という短く切ったような鳴き声です。



## チヨウゲンボウ

はじめて名前を聞いた人はどんな生き物を想像するのでしょうか?実は小型のハヤブサの仲間、庄内地方では意外と市街地上空でも観察されることがあります。「キキキキ…」とハヤブサを高くしたような鳴き声です。



## ミサゴ

水辺で暮らすミサゴは、魚食に特化した猛禽類で、春から夏にかけて繁殖に入ります。海岸近くの雑木林などで見かけることがありますので、上空も気にしてみてください。「ピッピッ…」と可愛い印象の鳴き声です。



## カケス

猛禽類ではなくカラスの仲間なのですが、よく森の中で猛禽類たちの「鳴きまね」をしています。「ピーピーピー」と聞こえて「クマタカだ!」と思えば、「ピーピーピー…ジェー!」という本来の鳴き声を発しますので、早とちりせずに「鳥の話は最後まで」聞きましょう。



# 庄内の動物情報コーナー

令和4年1月～2月の山形県庄内地方は豪雪となりました。道路除雪が追いつかず、各主要道路で立往生も発生するなど影響も大きかったです。さらにシーズン後半はハクチョウ類の死亡が水田や河口部で次々と報告され、3月末時点で酒田市環境衛生課にて焼却処分した個体は約130個体にもなりました。幸いにも鳥インフルエンザの発生は確認されておらず、死亡個体の報告も落ち着き始めている状況です。お住いの地域の自然情報をmoukin@raptor-c.comまでお寄せください。



2022/1月「ミコビシギ」酒田市  
旅鳥として日本を通過していくのですが、年末年始時期の観察は稀だと思います。脚をケガしているように見えたそうです。無事に帰れたでしょうか。  
撮影：佐々木真一様



2022/2/6「タシギ」鶴岡市  
大雪で、上空から庄内平野を見たら、南極大陸みたいに見えたのかも知れないですね…。その中で偶然見えた住宅街のオアシスにやってきたタシギ。あれ？ここ水田じゃないの？融雪された庭だったようです。  
撮影：毛呂様



2022/2/8「オジロワシ」酒田市  
今シーズンは大雪で、田んぼの積雪も多かったです。今になって雪が無くなりましたが、中からハクチョウの死体がちらほら発見されました。これらオジロワシも水田のハクチョウにありついたということのかな？  
撮影：渡会様



2022/2/11「ハヤブサ」酒田市  
特徴的な顔の模様がはっきりと出ています。「このハヤブサひげを見忘れたとは言わせねえぜ！」決め台詞ですよね。えっ？わからない？  
撮影：たちん様



2022/3/2「ユキホオジロ」遊佐町  
いつもは海岸近くで観察されることの多いユキホも、大荒れの天候だったせいもあってか、内陸部で観察できました。「天水桶に竜」とは正にこのこと？いや違うか。  
撮影：渡会様



2022/3/5「ナベヅル」酒田市  
近年ツルも毎年のように観察されるようになって来ましたね。滞在する期間は短かったようですが、数羽の群れを観察できたのでした。  
撮影：佐々木真一様

## 全国の動物情報コーナー



2022/3/16「タゲリ」酒田市  
構造色が美しい。ピンっ！と跳ねた後頭部もキュート。  
撮影：土屋様



2022/3/24「ベニマシコ」酒田市  
見事な紅色。雪景色がよく似合う鳥だと思います。  
撮影：中村様



2022/3/26「ホンセイインコ」神奈川県  
花札のとおり、梅にはやっぱり緑色のウグイスが似合…違～う！関東地域に外来種として定着してしまった緑色のインコのようにす…。(梅でもなく桜)  
撮影：今井妙子様

# 環境省・鳥海南麓自然保護官事務所 職員退職のご挨拶

希少種等保護増殖専門員 長船 裕紀

この度、2022(令和4)年3月をもって退職することとなりました。2012(平成24)年から10年間、環境省鳥海南麓自然保護官事務所(猛禽類保護センター・鳥海イヌワシみらい館)に、希少種保護増殖等専門員(自然保護専門員)として勤務しました。苦しいときも多くの方々を支えられ、今日まで仕事を続けられたことに感謝いたします。大変お世話になりました。

春から鳥海山・飛島ジオパークに係る業務に従事することになりました。恐縮ではありますが、この場をお借りしてご報告させていただきます。

これまでの思い出話と、今後の抱負にお付き合いください。

イヌワシ保護増殖事業をはじめ、猛禽類保護センター機能に関わること10年、微力ながら官公庁業務として猛禽類の保護保全業務に触れられたのは貴重な経験でした。思い入れが強いのは東北6県のイヌワシ繁殖状況調査です。毎年、多くの方々からアンケート(聞き取り含む)等によって情報収集し、さらに自前のフィールド調査でも補完する「イヌワシデータベース」を更新・管理するというもの(2022年3月現在、東北地方90ペア登録)です。今後の保全施策の基礎となる重要なデータです。イヌワシ関係者の皆さま、ひとかたならぬご尽力をいただき感謝申し上げます。

ここ数年は、イヌワシの好適餌場環境創出を目指した、関係機関への働きかけが大きなテーマでした。生態学的な裏付けも重要であるとともに、イヌワシと密接な関連性を持つ森林(特に人工林)管理について、その仕組みや持続的な管理経営のインセンティブをどのように社会に意識させ落とし込むかが大きな課題でした。土地所有者に対して、イヌワシの繁殖状況、ペア単位の行動圏の植生状況(人工林の林齢階級(樹齢))など、緊急性を様々な角度から示すことが求められます。2021年度は、一定の戦略に基づき、ようやく事業として外部への情報公開に着手し始めたころでした。こういったタイミングでこの場を去るのは非常に後ろ髪をひかれる思いですが、今後も別の角度から関わられるよう模索していきたいと思っております。

兎にも角にもイヌワシから多くのことを学びました。学生時代に”生態学＝社会(経済)学”の側面も重要と教わりましたが、イヌワシ業務はまさに社会学そのものでした。政策なくして成果(イヌワシの繁殖成功率向上)は得られないと肌で感じた10年でした。一方で、政策は地域の営みなくして変化を期待することはできません。したがって、切り口の一つとして地域資源を活かした持続可能な地域社会の構築に向けた業務(普及啓発)にも取り組みました。地域の営みや産業を支えるのは担い手である地域住民です。しかし、地域コミュニティとの関わりをもつ時間は業務の中では得られませんでした。それは立場による特性かもしれませんが、徐々に自身の価値観とのずれを感じるようになっていったのも転職のきっかけだったと感じています。

新天地ではジオパークが大テーマですが、扱う領域はイメージされやすい大地(地質や地形)のみならず、その上に成立している動植物(自然)、人々暮らし(歴史、産業、文化)にも及びます。私の関心ごとの一つは、地域の自然と人の暮らしが、今後どのように関わっていくのかということです。ジオパークを通じて、人々の暮らしや産業と自然との結びつきについて、わかりやすく(時には生態学的に、時には社会的に)伝えていくことです。これまで同様の切り口に加え、地域社会と深く関わり合いながら、地域の遺産を次世代に引き継いでいけるよう尽力します。

4月から変わらず酒田市民のままでですので、引き続きよろしくお願い致します。



# "とびしまんちゅ流"鳥見のススメ



楽しく、そしてより良い鳥見をするための「小さな親切、大きなお世話」な”ひとり言”です(^; Have a nice Birding!

## 第1回「観察に勝るものなし！」



「首を上げたカリガネの群れ」

果たして、その意味は？そして、この時に観察者が取るべき行動は？

探鳥会に参加する人、近所でひとりで見ている人、珍鳥を求めて全国を駆け回る人、猛禽類などの特定の種だけを追う人……鳥屋(バードウォッチャー)にも色々なスタイルがある。

どのような鳥見スタイルであろうと、人それぞれ自由な中で、共通して最も大切なことは「観察」だ。かわいい仕草やきれいな姿、野生の生き様をより良く見たり撮ったりするためには「観察」が欠かせない。鳥屋は増えているにもかかわらず、「鳥を知っている人」はとても少ない。「知っている」というのは識別ができることだけではなく、その鳥の生態、そして自然を知っているということだ。「かわいい」「きれい」「写真を撮りたい」……それだけでも決して間違いではないが、

鳥を知らなければ深く楽しむことはできないし、場合によっては鳥に良からぬ”観察圧”をかけてしまう。「観察」は最終的には鳥と自分の楽しみも守るということに繋がる訳だ。

図鑑やネットなどの情報だけに頼らず、自分の目と耳で確認(体験)する。自然の中に身を置き自ら体験したことこそが最も重要で、かつ価値があり、楽しみも2倍にも3倍にもする。仕草や鳴き声などを良く観察し、状況や意味を把握できれば、こちらの取るべき行動や新たな楽しみ方が見えてくるものだ。

他人の体験は、あくまでも参考だし、探鳥会やバードウォッチング・ツアーに参加することは、とっかかりのひとつに過ぎない。という私のこの話も参考にしか過ぎない訳だが……(^; まずは、やんだぐなるまで※1(「何したんだ?この鳥」と考えながら)ねっづく※2、鳥ば見てけらっしやい(^)/※3

「築川さんの山形弁講座 1回目」

※1 やんだぐなるまで→いやになるまで

※2 ねっづく→根気強く

※3 見てけらっしやい→見てください



築川 堅治(やながわ けんじ)  
日本野鳥の会山形県前支部長。中学二年生よりバードウォッチングを始め、現在はバードウォッチング・ツアーガイドや鳥類調査などを行っている。ライフワークは「飛鳥」。自称”とびしまんちゅ”春秋の渡りの時期を中心に年間約70日間、飛鳥に滞在し飛鳥の野鳥を調べている。著書「日本の離島の野鳥①飛鳥」(わたりがらす出版)



Illustrated by Masami Tsuno

©鳥海イヌワシみらい館

### 普及啓発担当

「雁首をそろえる」とは、皆同じ団体行動をすることの慣用句ですが、「軽蔑」の意味を含む場合もあり良い印象がない人もいられるのでは? 築川さんのコラム内のカリガネたちは警戒をしているということで、野鳥を刺激しないのがマナー。(本)

### 事務局

毎年この時期(とはいえ3年目)同じ場所でクマタカ観察。今年も姿を見せてくれました。テンションあがりますよね。枝をくわえて飛行中の個体を発見、巣材を運んでいたのかな。快晴でボカボカ陽気、きもちいい〜一日でした。(清)

### 鳥海南麓自然保護官

春がぐっと押し寄せてきましたね。少し前まで雪山だったのに、ツクシが顔を出し、ヒメオドリコソウやオオイヌフグリがかわいい花をつけ、ヨモギが柔らかい葉を広げ、春っていいな!と思います。(澤)

## 編集後記&施設情報 鳥海イヌワシみらい館 5月~7月の開館情報

開館時間・・・9:00~16:30

入館料・・・無料

休館日・・・6月中旬展示替、館内メンテナンスの休館

臨時休館日はホームページにてお知らせします。

ホームページアドレス : <http://www.raptor-c.com/>

[f https://www.facebook.com/Raptoreagleraptor](https://www.facebook.com/Raptoreagleraptor)

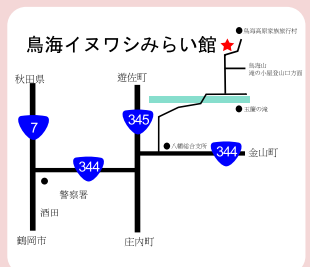
### 猛禽類保護センター

〒999-8207

山形県酒田市草津湯ノ台71-1

TEL 0234-64-4681 FAX 0234-64-4683

E-mail: [moukin@raptor-c.com](mailto:moukin@raptor-c.com)



鳥海イヌワシみらい館通信  
Vol.42 春号

発行: 猛禽類保護センター活用協議会  
(事務局 鳥海イヌワシみらい館内)